平成24年度甲信越北陸口腔保健研究会
第23回総会・学術大会

開催日：平成24年8月4日（土）

会　場：かいてらす　3階大ホール(山梨県地場産業センター)
山梨県甲府市東光寺 3-13-25
TEL 055-237-1641
FAX 055-228-9185

日　程　：11：30～12：30　幹　事　会(3階 南会議室)
13：00～13：30　総　　会(3階 大ホール)
13：30～15：00　学 術 大 会(3階 大ホール)
15：10～16：30　シンポジウム(3階 大ホール)
17：00～　　懇　親　会
ワインクラブ
同施設 2階

参加費：無料（参加登録のみ）　懇親会費：4，000円

シンポジウム　　15:10～16:30　【座長】山梨県歯科医師会
会長　三塚　憲二

テーマ「歯科保健条例制定への道

報　　告

15:10～15:20　花形　哲夫(山梨県歯科医師会専務理事)

『趣旨説明・山梨県の現状報告』

15:20～15:40　井口　光世(長野県歯科医師会常務理事)

『どのようにして条例を作成・制定したか、およびその現状』

15:40～16:00　清田　義和(新潟県福祉保健部健康対策課歯科保健係長)

『制定後4年、どのように活かされたか』

シンポジウム

16:00～16:30　シンポジスト

山梨県歯科医師会専務理事　花形　哲夫
長野県歯科医師会常務理事　井口　光世
新潟県福祉保健部健康対策課歯科保健係長　清田　義和

一 般 演 題　　13:30～14:00
【座長】松本歯科大学

社会歯科学講座
准教授　八上　公利

1. 多職種の連携・協働による幼児（保育園児）への味覚教育の取り組み

○武井啓一[1)] 鈴木正之[1)] 笠井隆司[1)] 中川裕子[2)]
内藤礼子[3)] 古屋好美[4)] 渡邊賢礼[5)]
[1)]甲府市歯科医師会 [2)]山梨県栄養士会 [3)]山梨県歯科衛生士会
[4)]中北保健所 [5)]昭和大学口腔衛生学講座

平成２２年より、多職種（歯科医師会・歯科衛生士会・栄養士会・調理師会・保健所・大学）の連携・協働のもと、５歳の幼児（保育園児）とその保護者を対象にして、味覚教育の企画、立案のための運営協議会を設置し、生活習慣病予防対策も視野に入れた食習慣等に関するアンケート調査、さらには咀嚼を通した味覚の重要性や風味（食品を口に入れた際に、舌の奥から喉にかけて感じられる味と香りの総称）の理解を学ぶための効率的な教育実践の方法を検討し、実施したので報告する。

2. 高齢者における咀嚼能力と体力の関係について

○瀧口知彌[1)] 小川祐司[1)] 葭原明弘[2)] 山賀孝之[1)] 宮﨑秀夫[1)]
[1)]新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野
[2)]新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野

70 歳以上の自立高齢者 305 人（男性 106 人・女性 199 人）対象に，咀嚼能力と体力（握力・開眼片足立ち時間・アップアンドゴー）の関連を評価した。その結果，咀嚼能力が低い群では男女ともに開眼片足立ち時間が短く（$P<0.05$）、さらに男性ではアップアンドゴーに要する時間が長かった（$P<0.001$）。本調査より，高齢者において咀嚼能力は体力と関連することが示唆された。

3. 唇顎口蓋裂児童の予防歯科受診回数と齲蝕経験歯数との関連

○金子 昇[1)] 八木 稔[2)] 小川祐司[1)] 宮﨑秀夫[1)]
[1)]新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野
[2)]新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野

2001 年から 2007 年に初診にて新潟大学医歯学総合病院予防歯科診療室を訪れた唇顎口蓋裂児童のうち 3 歳時点で受診のあった 146 名について、予防歯科のリコール回数と齲蝕経験歯数との関連性について検討した。従属変数として dft、独立変数として性別、生年、3 歳までのリコール回数を用いた重回帰分析の結果、リコール回数は $\beta=-0.218$、$p=0.010$ であり、3 歳までのリコール回数が多いほど、齲蝕経験歯数が減少する傾向が認められた。

一 般 演 題

14:00～14:30

【座長】日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座

教授　小松崎　明

4. 七位一体により山梨県がん対策推進条例に「歯科医療との連携」が明記されるに至った経緯

○矢島孝浩[1)]　渡邉和俊[2)]　阿久津仁[3)]　秋山賢一[4)]
武井啓一[5)]　若尾直子[6)]　渡邉賢礼[7)]
[1)]やじま歯科医院　[2)]和歯科クリニック　[3)]阿久津歯科医院　[4)]あきやま歯科医院
[5)]武井歯科医院　[6)]がんフォーラム山梨代表　[7)]昭和大学口腔衛生学講座

議員提出議案として制定された「山梨県がん対策推進条例」に全国で初めて「歯科医療との連携」が明記された。がん対策は、患者、立法府、行政府、医療提供者、民間、メディアなど異なる立場の人間が一緒に活動する「七位一体」で団結しなければ成果を上げられない。昨年、がん患者の任意団体である「がんフォーラム山梨」から、がん治療と口腔ケアの関連について正しい情報を提供するために講演会を行いたいとの企画が出され、『第5回山梨がんフォーラム～がんとお口はどんな関係2011』を県下4カ所で開催し「七位一体」で取り組んだ結果、条例に「歯科医療との連携」が明記されるに至った。

5. 東日本大震災後における歯科支援活動　－介護施設および障害者施設を中心として－

○八上公利[1)]　牧　茂[2)]　笠原　香[2)]　定岡　直[2)]　川原一郎[2)]
河瀬聡一朗[3)]　小笠原　正[3)]
[1)]松本歯科大学社会歯科学講座
[2)]松本歯科大学口腔衛生学講座
[3)]石巻市雄勝歯科診療所

災害による避難が長期化すると，口腔内状況が悪化することが多いといわれている．我々は，東日本大震災後の宮城県において歯科医療支援を行った．介護施設および障害者施設入所者の中には，口腔内に症状があっても「かかりつけ医」の被災や，インフラの不足により口腔ケアや治療を受けられない人々が多く存在した．そして，医療提供体制が崩壊した地域では，これらの施設に対する地元の医師会と連携のとれた継続的な活動が必要と思われた．

6. 笛吹市通所型介護予防事業　口腔機能向上事業（かむかむ塾）について

○内田真弓[1)]　稲村さゆり[1)]　伊藤由美香[1)]
[1)]山梨県歯科衛生士会

山梨県歯科衛生士会は、笛吹市から業務委託を受け通所型介護予防事業を行っている。二次予防事業対象者で、口腔機能の低下がみられ口腔機能向上事業への参加が望ましいと思われる者を対象に、口腔についての講義や口腔体操等を行うことで誤嚥や窒息を防ぐ目的で、1クール（おおむね3ヶ月）5回の教室を年間4回開催している。

平成21年～23年を対象に、事前・事後のアセスメントにおける口腔衛生状態、口腔機能評価について

の比較とアンケートについて報告する。

一 般 演 題

14:30～15:00

【座長】新潟大学大学院医歯学総合研究科
予防歯科学分野
准教授　小川　祐司

7.「フッ化物洗口事業実施のための現場職員（保育士）研修後の職員の齲蝕予防の関心・意識の変化」

○清宮　利花[1)]
[1)]小布施町教育委員会子ども教育グループ学校教育係

平成24年度、小布施町教育委員会では、町立幼稚園1園、町立保育園2園において、フッ化物洗口事業を実施する計画をした。フッ化物洗口事業を開始するにあたって、実施する現場である町立幼稚園1園、町立保育園2園、一時的保育に携わる、園長3名と正規職員保育士・非常勤職員保育士42名、計45名を対象にフッ化物洗口に関する研修会を実施し、研修後の職員の意識の変化をアンケートにて調査した。歯科専門職以外の担当者の意識の変化の調査結果を、今後の各地でのフッ化物洗口事業の実施に役立てればと思う。

8. 歯科診療所のホームページに関する調査　－新潟地域での調査結果について

○小松崎明[1)]　小野幸絵[2)]
[1)]日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座
[2)]日本歯科大学新潟病院総合診療科

インターネット調査会社の契約モニターのうち本州中部日本海ブロック（新潟、富山、山形県）に所属する者300名を対象として、閲覧経験や閲覧目的、通院等の12項目について調査した。その結果、歯科診療所HPの閲覧経験がある者は35％で、そのうち28%の者が閲覧した歯科診療所に通院していた。閲覧手段はPCが98％とほとんどで、携帯等は47％に留まっていた。閲覧した感想については、閲覧した者の60％以上からは見やすいなど良好な感想が得られた。

9. 地域における歯周疾患健診の普及　～唾液検査を用いた歯周疾患健診～

○吉田英二[1)]　石川　徹[1)]　花形哲夫[1)]　三塚憲二[1)]
[1)]山梨県歯科医師会

山梨県歯科医師会の調査などにより「残存歯数と医療費。歯周疾患の罹患程度と医療費」に相関性があることが示唆された。つまり、歯周疾患と生活習慣病の関連は明らかである。しかし、地域においてはいまだにその健診は口腔内の直視によるツルー・エンドポイントになってからの発見が主で受診率は低い。そこで、山梨県歯科医師会では唾液に注目し歯周疾患のスクリーニングとリスク診断を目的として「唾液検査」を用いた歯周疾患健診を実施したのでここに報告する。